

第3回生物の多様性を育む 農業国際会議2014を開催しました



第3回生物の多様性を育む農業国際会議共同宣言

おおさき宣言

2014年12月7日
開催地：宮城県大崎市

アジアでは、その気候に適した水田稲作農業が古くから盛んに行われ、生物多様性に富んだ農業生態系を形成してきました。

農業の近代化が進む中で、農業や化学肥料に頼る農業が主流化し、生態系の劣化や、天敵がいなくなったことで、害虫が増えたりする現象が起こるなど、アジア共通の課題がありました。

「生物の多様性を育む農業国際会議」は、これらに対応を日本、中国、韓国のアジア諸国で議論し、農業などに頼らない稲作に取り組み農業者間の技術交流の場として、また生きもの調査に取り組みなど関心の高いNPOや消費者団体の交流の場として、2010年から開催されてきました。

昨年12月5日から7日の3日間にわたり、第3回となる同会議の開催を本市が誘致し、約750人が集いました。

初日は、蕪栗沼などの現



生物多様性

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上には、それぞれの環境に適応した3,000万種ともいわれる多様な個性を持つ生きものがおり、お互いにつながりあい、支えあって生きています。私たち人間もその一部です。

地球の歴史上6度目の大量絶滅の危機といわれている現在、かつてないスピードで生物多様性が失われています。この大量絶滅から、絶妙なバランスで成り立っている生態系を守っていきましょう。また、未来への世代のために、現在の多様ないのちの豊かさを残していくとする取り組みが、世界的に求められています。

出典：環境省生物多様性ウェブサイト
<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>

地視察、2日目は市民会館を会場に基調講演やパネル討論、3日目はまとめの総合討論を行い、参加者の決意などを示した「おおさき宣言」を取りまとめ、閉会しました。

関係者間の活発な意見交換と相互理解が進み、アジアの水田稲作農業を核とした生物多様性の向上と取り組みを推進する契機となりました。

… おおさき宣言の概要 …

会議の参加者は、以下に要約される点について情報共有を行い、議論を深めた。農業の営みを通して形成されてきた農業生態系、生物多様性の回復を目指して、それぞれの立場で一歩ずつ取り組みを前に進めていく決意を表明するとともに、広く世界の関係者にこの取り組みへの理解と積極的な支援・参加を呼びかける。

湿地としての水田

水田は、稲作のために管理された季節的な湿地として重要。冬期または春の早期に水を張ったり、排水しても生き物が退避できる溝の設置、冬場に暗渠の排水栓を閉じることなどが有効であることが示された。

農業・化学肥料に頼らない水田営農技術

十分な元肥を供した土作りのもとで、根が張り生育の進んだ健康な苗を適切な密度で植えることによりイネ本来の病害虫への抵抗性を引き出し、2回代掻きや深水管理などで雑草抑制を図る生物多様性活用農法が示された。

生物多様性防除

水田では生物が複雑につながった生態系が形成されており、中でも害虫を捕食する天敵生物の餌となっているミジンコやユスリカなどの「ただの虫」の存在が重要。このような点に着目し、農業生態系の機能や生物多様性を高めることで、害虫の大発生を抑える考え方（IBM：総合的生物多様性管理）が、農業に頼らない低コストの防除方法として示された。また、元来、その水田に存在しなかった外来生物を使った雑草管理などは、水田生態系に与える影響を慎重に考慮すべきとの考えが示された。

減農薬の環境保全型農業

通常やり方に比較して使用成分を半減させる環境保全型農業の実践で、生きものが豊かな水田が戻ってきた事例が紹介された。一方、育苗時に使用される箱処理剤が赤トンボの幼虫に与える影響、カメムシ防除が広く害虫以外の生物へ与える影響などへの懸念が示され、生態系への影響を考慮して使用農薬の種類を選定するなど、もう一歩踏み込んだ対応が今後の課題とされた。

水田の生きもの調査によって、普及・啓蒙活動と科学的モニタリングの実現を

水田の生きもの調査は、生物の豊かさと大切に気づく貴重な機会である。一方、より科学的に生物多様性の状況を把握するため、指標種を設定した調査方法などが提起された。

消費者とのつながり

水田営農を通して形成される農業生態系の役割やその価値の社会的認知度が低いことへの懸念が示された。生産者や行政は、生物種保全を前面に出した米の販売などその価値の「見える化」に努め、消費者はそれを理解し再生産可能な価格で買い支える仕組みが重要。その際、必ずしもシンボル性の高い生物だけでなく、かつて当たり前に見られたはずの「普通の生きもの」の絶滅危機とその保全の必要性を訴えることによってそれは可能である。